

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪工業技術専門学校
設置者名	学校法人福田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	建築学科	夜・通信	1,156 時間	160 時間	
	設備環境デザイン学科	夜・通信	1,292 時間	160 時間	
	大工技能学科	夜・通信	1,428 時間	160 時間	
	建築設計学科	夜・通信	1,020 時間	160 時間	
	インテリアデザイン学科	夜・通信	1,088 時間	160 時間	
	ロボット・機械学科	夜・通信	1,088 時間	160 時間	
	建築学科	夜・通信	576 時間	90 時間	
	フレックス建築学科	夜・通信	20 単位	4 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2019/06/120753882dd76223b506cc575e30c0c7.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪工業技術専門学校
設置者名	学校法人福田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h29_directors_list.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長	2017.6.5 ～2020.6.4	財務・経営
非常勤	私立大学名誉教授	2019.4.1 ～2022.3.31	教学
非常勤	医療法人 理事長・病院長	2017.6.5 ～2020.6.4	産業医
非常勤	株式会社取締役	2017.6.5 ～2020.6.4	財務・経営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪工業技術専門学校
設置者名	学校法人福田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教務会議に於いて、前年度内に各学科単位で授業科目ごとの見直し検討(改定の有無)を行った上で、運営会議に諮り承認を得た後に、シラバスを作成する。なお、シラバスを作成するにあたっては、【シラバス作成の手引き】に基づき「授業概要(授業内容・回数等)」及び「到達目標」・「試験方法」・「成績評価基準」等について記載する。</p> <p>※授業計画(シラバス)は、ホームページで毎年度4月当初に公表する。</p> <p>◆シラバス作成の手引き 2019</p> <p>・掲載ページアドレス</p> <p>https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2019/06/b30cbd8211c583ebc1b542bacd911c59.pdf</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページにて公表</p> <p>https://www.oct.ac.jp/for-st</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位認定の方針は、【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成、及び実施に関する方針）】と【履修規定】に基づいて行う。

【カリキュラム・ポリシー】では、『ディプロマ・ポリシー』に定めた能力を身に付けるため、下記のリンクアドレス先に示す編成方針、実施方針、及び成績評価基準に基づいて教育を実施する。

【履修規定】では、第1条（授業科目）・第2条（単位の算定）・第3条（履修の方法）・第4条（試験）・第5条（単位の認定）・第6条（成績の評価）・第7条（単位修得の確認）・第8条（卒業証書）を定めている。

なお、第5条（単位の認定）に係わる審査方法は、授業科目ごとに作成しているシラバスの「成績評価基準の欄」によって示し、その基準に基づき厳格かつ適正な判定を行う。

◆学生便覧 2019（刊行物）一部抜粋版：〔カリキュラム・ポリシー〕

・掲載ページアドレス

<https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2019/07/660880734a92216e833fa9b6e799d81a.pdf>

◆学生便覧 2019（刊行物）一部抜粋版：〔履修規定〕

・掲載ページアドレス

<https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2019/07/660880734a92216e833fa9b6e799d81a.pdf>

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の客観的指標として、GPA (Grade Point Average) を採用している。

GPAでは、5段階評価（秀・優・良・可・不可）によってポイント化し、成績の分布状況を把握した上で、学生の学修指導及び進級特待生の選定に活用している。

- ・【判定：合格】評価（秀）：評点（100～90点）*GP（4ポイント）
- ・【判定：合格】評価（優）：評点（89～80点）*GP（3ポイント）
- ・【判定：合格】評価（良）：評点（79～70点）*GP（2ポイント）
- ・【判定：合格】評価（可）：評点（69～60点）*GP（1ポイント）
- ・【判定：不合格】評価（不可）：評点（59点以下）*GP（0ポイント）

※但し、現2年生に関しては、4段階評価（優・良・可・不可）となる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページにて公表

◆学生便覧 2019（刊行物）一部抜粋版：〔GPA〕

<https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2019/07/660880734a92216e833fa9b6e799d81a.pdf>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）】は、学生便覧等に於いて公表すると共に、『真の仕事力』に関わる3つの能力を身に付け、学則で定める修業年限以上の在籍、及び修了に必要な所定の単位を取得した者に対して、卒業判定会議を経た上で、卒業を認定している。</p> <p>※3つの能力とは、以下に定めている。</p> <p>【技術者マインド】・・・・・・・・・・[技術者の軸] 技術者としての姿勢・感性・考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者の姿勢 2. 自分を知る 3. 相手を知る 4. 世界を知る 5. 頭と身体で創造する <p>【専門知識・技術・資格】・・・・・・・・・・[技術者の常識] 技術者としての基本要件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識 2. 技術 3. 資格 <p>【ことばの力】・・・・・・・・・・[技術者の基礎] 学び・考え・創造し、コミュニケーションすることの根本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的なことばの力 2. 専門知識・技術を学ぶためのことばの力 3. 社会人として通用することばの力 4. 考えるためのことばの力 5. コミュニケーションのことばの力 6. 「ことばにできることで物事を理解できること」を理解 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表</p> <p>◆学生便覧 2019（刊行物）一部抜粋版 ：[ディプロマ・ポリシー] https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2019/07/660880734a92216e833fa9b6e799d81a.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪工業技術専門学校
設置者名	学校法人福田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30_business_report_07.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30_business_report_05.pdf
財産目録	https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30_business_report_03.pdf
事業報告書	https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30_business_report_01.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30_business_report_02.pdf

2. 教育活動に係る情報

①-1 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,700時間 単位時間/単位	1,292 時間	102時 間	816時 間	時間	時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		226人	1人	11人	36人	47人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業科目ごとに、『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について記載されたシラバスに基づいて、定められた各期間【通年（前期/後期）、前期、後期】で授業を行う。
成績評価の基準・方法
（概要）5段階評価（秀・優・良・可・不可）によって、授業科目ごとに判定を行い、秀・優・良・可（100～60点）を合格とし、不可（59点以下）を不合格とする。 ※但し、現2年生に関して、4段階評価（優・良・可・不可）での判定となる。
卒業・進級の認定基準
（概要）【履修規定】の第1条（授業科目）で示す各学科のカリキュラム表に明記している下記の条件を満たすことにより進級、及び卒業の認定を行う。 ・進級条件：必須科目10単位を含め、合計38単位以上履修合格。 ・卒業条件：必須科目合計22単位を含め、総合計78単位以上を履修合格。

<p>学修支援等</p> <p>(概要) クラス担任制により、定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し、状況に応じた適切な指導を行う。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
81人 (100%)	31人 (38.3%)	44人 (54.3%)	6人 (7.4%)
(主な就職、業界等) 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
(就職指導内容) クラス担任に加え進路支援室職員が、直接に学生の就職にあたっての基礎知識や活動方法、企業の選び方、履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法までを指導する。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 2級建築施工管理技士 (学科) 合格者 6名 / 受験者 19名 福祉住環境コーディネーター (3級) 合格者 30名 / 受験者 101名 ビジネス能力検定 (2級) 合格者 14名 / 受験者 15名 ビジネス能力検定 (3級) 合格者 41名 / 受験者 52名 ・2級建築士試験 (修了と同時に受験資格を取得) ※2019年度試験日程 (学科合格発表 : 8/27、製図合格発表 : 12/5)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
221人	37人	16.7%
(中途退学の主な理由) 学業不振、経済的な問題、進路変更 (就職等)、家庭の事情等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行う。		

①-2 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	設備環境デザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,006 時間 単位時間/単位	1,292 時間	34 時間	1,224 時間	時間	時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	26人	0人	6人	10人	16人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業科目ごとに、『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について記載されたシラバスに基づいて、定められた各期間【通年（前期/後期）、前期、後期】で授業を行う。
成績評価の基準・方法
（概要）5段階評価（秀・優・良・可・不可）によって、授業科目ごとに判定を行い、秀・優・良・可（100～60点）を合格とし、不可（59点以下）を不合格とする。 ※但し、現2年生に関して、4段階評価（優・良・可・不可）での判定となる。
卒業・進級の認定基準
（概要）【履修規定】の第1条（授業科目）で示す各学科のカリキュラム表に明記している下記の条件を満たすことにより進級、及び卒業の認定を行う。 ・進級条件：必須科目22単位を含め、合計44単位以上履修合格。 ・卒業条件：必須科目合計44単位を含め、総合計82単位以上を履修合格。
学修支援等
（概要）クラス担任制により、定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し、状況に応じた適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	2人 (22.2%)	7人 (77.8%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
（就職指導内容） クラス担任に加え進路支援室職員が、直接に学生の就職にあたっての基礎知識や活動			

方法、企業の選び方、履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法までを指導する。
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>配管技能士(2級) 合格者1名/受験者2名 配管技能士(3級) 合格者10名/受験者12名 第1種電気工事士 合格者1名/受験者8名 第2種電気工事士 合格者5名/受験者10名 2級管工事施工管理技士(学科) 合格者7名/受験者8名 ビジネス能力検定(3級) 合格者9名/受験者10名</p> <p>・2級建築士試験(修了と同時に受験資格を取得) ※2019年度試験日程(学科合格発表:8/27、製図合格発表:12/5)</p>
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更(就職等)。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行う。		

①-3 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	大工技能学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,040 時間 単位時間/単位	714 時 間	34 時間	1,632 時間	時間	時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	76人	0人	6人	19人	25人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業科目ごとに、『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について記載されたシラバスに基づいて、定められた各期間【通年（前期／後期）、前期、後期】で授業を行う。
成績評価の基準・方法
（概要）5段階評価（秀・優・良・可・不可）によって、授業科目ごとに判定を行い、秀・優・良・可（100～60点）を合格とし、不可（59点以下）を不合格とする。 ※但し、現2年生に関して、4段階評価（優・良・可・不可）での判定となる。
卒業・進級の認定基準
（概要）【履修規定】の第1条（授業科目）で示す各学科のカリキュラム表に明記している下記の条件を満たすことにより進級、及び卒業の認定を行う。 ・進級条件：必須科目16単位を含め、合計32単位以上履修合格。 ・卒業条件：必須科目合計32単位を含め、総合計64単位以上を履修合格。
学修支援等
（概要）クラス担任制により、定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し、状況に応じた適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
41人 (100%)	7人 (17.1%)	34人 (82.9%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
（就職指導内容） クラス担任に加え進路支援室職員が、直接に学生の就職にあたっての基礎知識や活動			

方法、企業の選び方、履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法までを指導する。
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>建築大工技能士 (2 級) 合格者 8 名 / 受験者 40 名</p> <p>建築大工技能士 (3 級) 合格者 24 名 / 受験者 33 名</p> <p>ビジネス能力検定 (3 級) 合格者 27 名 / 受験者 37 名</p> <p>・ 2 級建築士試験 (修了と同時に受験資格を取得)</p> <p>※2019 年度試験日程 (学科合格発表 : 8/27、製図合格発表 : 12/5)</p>
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88 人	13 人	14.8%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更 (就職等)、家庭の事情等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行う。		

①-4 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築設計学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,972 時間 単位時間/単位	1,088 時間	170 時 間	1,156 時間	時間	時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	41人	11人	12人	16人	28人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業科目ごとに、『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について記載されたシラバスに基づいて、定められた各期間【通年（前期／後期）、前期、後期】で授業を行う。
成績評価の基準・方法
（概要）5段階評価（秀・優・良・可・不可）によって、授業科目ごとに判定を行い、秀・優・良・可（100～60点）を合格とし、不可（59点以下）を不合格とする。 ※但し、現2年生に関して、4段階評価（優・良・可・不可）での判定となる。
卒業・進級の認定基準
（概要）【履修規定】の第1条（授業科目）で示す各学科のカリキュラム表に明記している下記の条件を満たすことにより進級、及び卒業の認定を行う。 ・進級条件：必須科目14単位を含め、合計40単位以上履修合格。 ・卒業条件：必須科目合計28単位を含め、総合計80単位以上を履修合格。
学修支援等
（概要）クラス担任制により、定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し、状況に応じた適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 （100%）	3人 （12%）	20人 （80%）	2人 （8%）
（主な就職、業界等） 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
（就職指導内容） クラス担任に加え進路支援室職員が、直接に学生の就職にあたっての基礎知識や活動			

方法、企業の選び方、履歴書を始めたとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法までを指導する。
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>福祉住環境コーディネーター (2級) 合格者 3名 / 受験者 3名</p> <p>福祉住環境コーディネーター (3級) 合格者 8名 / 受験者 8名</p> <p>インテリアコーディネーター 合格者 1名 / 受験者 1名</p> <p>宅地建物取引士 合格者 2名 / 受験者 2名</p> <p>・ 2級建築士試験 (修了と同時に受験資格を取得)</p> <p>※2019年度試験日程 (学科合格発表 : 8/27、製図合格発表 : 12/5)</p>
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50人	5人	10%
(中途退学の主な理由) 学業不振、家庭の事情等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行う。		

①-5 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	インテリアデザイン 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,734 時間 単位時間/単位	952 時 間	34 時間	1,224 時間	時間	時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		62人	3人	5人	15人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業科目ごとに、『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について記載されたシラバスに基づいて、定められた各期間【通年（前期／後期）、前期、後期】で授業を行う。
成績評価の基準・方法
（概要）5段階評価（秀・優・良・可・不可）によって、授業科目ごとに判定を行い、秀・優・良・可（100～60点）を合格とし、不可（59点以下）を不合格とする。 ※但し、現2年生に関して、4段階評価（優・良・可・不可）での判定となる。
卒業・進級の認定基準
（概要）【履修規定】の第1条（授業科目）で示す各学科のカリキュラム表に明記している下記の条件を満たすことにより進級、及び卒業の認定を行う。 ・進級条件：必須科目20単位を含め、合計38単位以上履修合格。 ・卒業条件：必須科目合計38単位を含め、総合計72単位以上を履修合格。
学修支援等
（概要）クラス担任制により、定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し、状況に応じた適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	9人 (52.9%)	6人 (35.3%)	2人 (11.8%)
(主な就職、業界等) 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
(就職指導内容) クラス担任に加え進路支援室職員が、直接に学生の就職にあたっての基礎知識や活動			

方法、企業の選び方、履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法までを指導する。
(主な学修成果(資格・検定等)) ビジネス能力検定(3級)合格者19名/受験者22名 <ul style="list-style-type: none"> 2級建築士試験(修了と同時に受験資格を取得) ※2019年度試験日程(学科合格発表:8/27、製図合格発表:12/5)
(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	1人	2.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更(就職等)。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行う。		

①-6 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	ロボット・機械学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼間	1,836 時間 単位時間/単位	680 時 間	476 時 間	1,156 時間	時間
			単位時間			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人		87人	25人	3人	11人	14人

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業科目ごとに、『授業概要 (授業内容・回数等)』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について記載されたシラバスに基づいて、定められた各期間【通年 (前期/後期)、前期、後期】で授業を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) 5段階評価 (秀・優・良・可・不可) によって、授業科目ごとに判定を行い、秀・優・良・可 (100~60点) を合格とし、不可 (59点以下) を不合格とする。 ※但し、現2年生に関して、4段階評価 (優・良・可・不可) での判定となる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【履修規定】の第1条 (授業科目) で示す各学科のカリキュラム表に明記している下記の条件を満たすことにより進級、及び卒業の認定を行う。 ・進級条件 ：必須科目・選択必須科目 16 単位を含め、合計 36 単位以上履修合格。 ・卒業条件 ：必須科目・選択必須科目合計 34 単位を含め、総合計 74 単位以上を履修合格。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し、状況に応じた適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
44人 (100%)	2人 (4.5%)	42人 (95.5%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 産業機械、精密機械、自動車等のメーカー、他。			

<p>(就職指導内容)</p> <p>クラス担任に加え進路支援室職員が、直接に学生の就職にあたっての基礎知識や活動方法、企業の選び方、履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法までを指導する。</p>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>2次元CAD利用技術者(2級) 合格者11名/受験者20名 ビジネス能力検定(2級) 合格者1名/受験者2名 ビジネス能力検定(3級) 合格者23名/受験者27名</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88人	3人	3.4%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更(就職等)、家庭の事情等。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行う。</p>		

①-7 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜間	1,728 時間 単位時間/単位	612 時 間	396 時 間	864 時 間	時間	時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		91 人	0 人	9 人	13 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業科目ごとに、『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について記載されたシラバスに基づいて、定められた各期間【通年（前期／後期）、前期、後期】で授業を行う。
成績評価の基準・方法
（概要）5段階評価（秀・優・良・可・不可）によって、授業科目ごとに判定を行い、秀・優・良・可（100～60点）を合格とし、不可（59点以下）を不合格とする。 ※但し、現2年生に関して、4段階評価（優・良・可・不可）での判定となる。
卒業・進級の認定基準
（概要）【履修規定】の第1条（授業科目）で示す各学科のカリキュラム表に明記している下記の条件を満たすことにより進級、及び卒業の認定を行う。 ・進級条件：必須科目12単位を含め、合計24単位以上履修合格。 ・卒業条件：必須科目合計22単位を含め、総合計72単位以上を履修合格。
学修支援等
（概要）クラス担任制により、定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し、状況に応じた適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
41人 (100%)	0人 (0%)	41人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。 ※上記の就職者数には、既に就職している16名を含む。			

<p>(就職指導内容)</p> <p>クラス担任に加え進路支援室職員が、直接に学生の就職にあたっての基礎知識や活動方法、企業の選び方、履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法までを指導する。</p>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>・2級建築士試験 (修了と同時に受験資格を取得) ※2019年度試験日程 (学科合格発表 : 8/27、製図合格発表 : 12/5)</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
95人	11人	11.6%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学業不振、進路変更 (就職等) 、家庭の事情等。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行う。</p>		

①-8 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	フレックス建築学科 (単位制)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜間	54 単位 単位時間/単位	34 単 位	22 単 位	24 単 位	単位	単位
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		11 人	0 人	9 人	13 人	22 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業科目ごとに、『授業概要 (授業内容・回数等)』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について記載されたシラバスに基づいて、定められた各期間【通年 (前期/後期)、前期、後期】で授業を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) 5段階評価 (秀・優・良・可・不可) によって、授業科目ごとに判定を行い、秀・優・良・可 (100~60 点) を合格とし、不可 (59 点以下) を不合格とする。 ※但し、現 2 年生に関して、4 段階評価 (優・良・可・不可) での判定となる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【履修規定】の第 1 条 (授業科目) で示す各学科のカリキュラム表に明記している下記の条件を満たすことにより卒業の認定を行う。 ・卒業条件: 専門科目 (必須科目) 22 単位、及び基幹科目 (必須科目) 32 単位を含め、総合計 54 単位以上を履修合格。
学修支援等
(概要) クラス担任制により、定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し、状況に応じた適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1 人 (100%)	0 人 (0%)	1 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
(就職指導内容) クラス担任に加え進路支援室職員が、直接に学生の就職にあたっての基礎知識や活動			

方法、企業の選び方、履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法までを指導する。
(主な学修成果 (資格・検定等)) <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 級建築士試験 (修了と同時に受験資格を取得) ※2019 年度試験日程 (学科合格発表 : 8/27、製図合格発表 : 12/5)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	3 人	27.3%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情等。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行う。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
建築学科	150,000 円	850,000 円	204,000 円	
設備環境 デザイン 学科	150,000 円	850,000 円	204,000 円	
大工技能 学科	150,000 円	850,000 円	354,000 円	
建築設計 学科	150,000 円	850,000 円	304,000 円	
インテリア デザイン 学科	150,000 円	850,000 円	204,000 円	
ロボッ ト・機械 学科	150,000 円	850,000 円	204,000 円	
建築学科 (夜)	100,000 円	414,000 円	92,000 円	
フレック ス建築学 科 (夜)	100,000 円	23,000 円～ 448,500 円	85,000 円～ 140,000 円	単位制に付き科目の履修登録によつて金額に差異がでる。1年次は、最少1科目2単位(半期履修)から最多21科目39単位(全期履修)で算出して記載。
修学支援 (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> ■ 在学生対象学費支援：1年次の成績優秀者に対し、進級時に年間授業料の一部を免除 ■ 特待生入試：入学試験の合格者（授業料の一部を免除※2年間） ■ 卒業生・在校生推薦入試：入学試験の合格者（授業料の一部を免除※初年度のみ） 				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
ホームページにて公表 https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30_zikotenkenhyouka.pdf
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)

『専修学校における学校評価ガイドライン』に基づき、学校の教育活動、教育成果、学生支援、教育環境、その他の学校運営の状況等全般に亘って、自己点検評価を行うと共に、企業等の役職者等からなる「学校関係者評価委員会」に於いて、自己点検評価の結果に対する意見と評価を頂く。また、その結果をホームページ等で広く社会に公表すると共に、その提出された意見を踏まえ、今後の教育活動及びその他の学校運営に活かすことを目的・方針とする。

【評価委員の構成】委員の定数：4名以上

〔建築系企業役職者1名以上、機械系企業役職者1名以上、高校関係者1名以上
卒業生1名以上〕

【評価結果の活用方法】

委員会終了後速やかに、評価委員から提出された意見をもとに、副校長が実施責任者となって、当該年度内に優先順位を付けて改善を行う。なお、当該年度内に実施できない事項については、継続案件として次年度以降に取り組む。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
奈良県立奈良朱雀高等学校 建築工学科長 松山義広	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	高校教員
株式会社金山工務店 執行役員 延安浩二	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	企業等委員
住友精密工業株式会社 総務人事部アシスタントマネジャー 河野正道	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	企業等委員
建築学科（昭和51年卒業） 木口特次	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	卒業生

学校関係者評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

ホームページにて公表

https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30_gakkoukankeishahyouka.pdf

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

ホームページにて公表

https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30_zyouthouteikyoku.pdf